

蔵王堂花供懺法会

花供懺法会は、千年以上続く金峯山寺で最も重要な法会のひとつです。毎年4月10日から12日までの三日間、蔵王権現のご神木の桜の開花を修験道の本尊である、青い色をした蔵王権現に奉告します。この春の訪れを奉告する法会は、人々の幸せを願い、これまでの犯した罪を懺悔するための儀式でもあります。

祭りの初日は主に修験道の女性行者が中心となり、大規模な「護摩」という火を使った祈りの儀式を行います。護摩では願い事が書かれた木の板（護摩木）を燃やします。祭りの参加者は平安時代（794–1185）から続く伝統「千本搗き」に加われます。千本搗きでは、長い棒でもち米をつき、餅を作ります。そうしてできた餅は参加者に配られます。

後の二日は、奴（貨物の積み下ろしをしたり、警備をする人などのこと）に扮した人々、僧侶、伝統的な衣装で美しく着飾った子供たち、そして修験道の行者が順に並んで行列をつくり、竹林院から蔵王堂まで練り歩きます。